

SONY RX100VIIの特徴

SONY RX100VIIには、手のひらサイズのコンパクトなボディの中にさまざまな優れた機能が搭載されている。ここでは、RX100VIIに備わった特徴的な機能と性能を生かして撮影した作品を紹介する。

新開発のイメージセンサーと 最新の画像処理技術による 高い描写性能



DATA

モード	M	絞り	F4.5	シャッター	1/2500秒	ISO	400
WB	日陰	露出補正	-0.3	焦点距離	44mm (約119mm相当)		

新開発のイメージセンサーと最新の画像処理エンジンにより、質感表現を追求した高画質を実現。また、エリア分割ノイズリダクションで、高感度撮影時も暗部の画質が向上した。高い色再現による自然で忠実な描写も特徴だ。

最高約20コマ/秒の ブラックアウトフリー連続撮影



DATA

モード	M	絞り	F7.1	シャッター	1/2500秒	ISO	320
WB	太陽光	露出補正	0	焦点距離	72mm (約194mm相当)		

α9と同様の最高約20コマ/秒の連続撮影を実現。動きが複雑で速さに緩急のある被写体でも、最大60回/秒のAF/AE演算処理により、連続撮影中も高精度な追従が可能だ。ブラックアウトのない連続撮影は本格的な撮影でも効果を発揮する。

SECTION

01

RX100シリーズの
各部名称を覚えよう

100V 100VI 100VII KEYWORD ▶RX100V ▶RX100VI ▶RX100VII

RX100シリーズのカメラは小型で軽量ながらも、たくさんの機能が詰まっている。**どこにどんな機能のボタンが配置されているかを把握しておく**と、撮影がスピーディに効率よく行えるだろう。

RX100VII (シリーズ共通)

[前面・上面]



- 1 撮影時: W/T(ズーム)レバー
再生時: 一覧表示)レバー
/再生ズームレバー
- 2 セルフタイマーランプ/AF補助光
- 3 レンズ
- 4 ファインダー
- 5 ストラップ取り付け部
- 6 シャッターボタン
- 7 モードダイヤル
- 8 フラッシュポップアップ)スイッチ
- 9 ON/OFF(電源)ボタン
- 10 電源/充電ランプ
- 11 フラッシュ
- 12 内臓マイク
- 13 コントロールリング

[背面]



[側面]



[底面]



- 14 MOVIE(動画)ボタン
- 15 撮影時: Fn(ファンクション)ボタン
再生時: 再生時: (スマートフォン転送)ボタン
- 16 MENU(メニュー)ボタン
- 17 コントロールホイール
- 18 C/ (カスタム/削除)ボタン
- 19 (再生)ボタン
- 20 モニター
- 21 アイセンサー
- 22 マルチ/マイクロUSB端子
- 23 HDMIマイクロ端子
- 24 Wi-Fi/Bluetoothアンテナ(内部)
- 25 ファインダーポップアップスイッチ
- 26 N(Nマーク)
- 27 スピーカー
- 28 バッテリーロックレバー
- 29 メモリーカード挿入口
- 30 アクセスランプ
- 31 バッテリー挿入口

SECTION

03

カメラの構え方を覚えよう

100V 100VI 100VII KEYWORD ■持ち方 ■構え方 ■ファインダー ■可動式モニター

1 正しい構え方

RX 100シリーズには手ブレ補正機能が搭載されているが、突然のシャッターチャンスに肩に力が入ってしまうときなどは、思わぬ手ブレや構図の傾きなどの失敗が生じることもあるだろう。**カメラを正しく構える**ことは、これらの失敗を防ぐことにつながる。基本的には、**左手でカメラボディを支え、右手でシャッターを切る**ように構えることで安定させるのだが、RX 100シリーズはボディが小さいので、一眼レフカメラと同じように構えていては撮りにくいと感じる人もいるだろう。両手で持ったり、左手で下から支えてみたり、自分の手に合った構え方をすればよい。

[両手]



女性や子どもなど、手の小さな人は、このように両手でしっかりと構えるとホールドしやすいだろう。縦で持つときは自然と左手が下にくることになるが、このときも左手でカメラを支え、右手でシャッターを切ることになる。

[左手で支える]



一眼レフカメラの場合は大きなレンズを左手で下から支える形をとることが多いが、RX 100シリーズの場合は、このようにボディの下を左手で支えるようにすることで安定する。

2 ファインダー撮影時の構え方

ファインダー（EVF）をポップアップさせれば、日中、炎天下で撮影するような場合でも、明るさをしっかり確認しながら撮影を進めることができる。(P.30)

[横位置]



右目でファインダーを覗くように構えることで、左目で状況を確認しつつ撮影することができる。ファインダー撮影時には、肩の力を抜くように心がけよう。

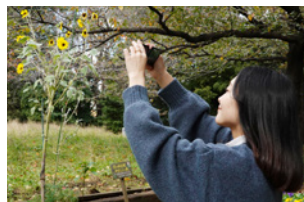
[縦位置]



ファインダーで縦位置撮影をする場合は、カメラが斜めに傾きやすい。まっすぐな構図で撮りたい場合は、特に気をつけよう。

3 可動式モニターを活用する

目線よりも高い位置や低い位置からの撮影では、**可動式モニターの角度を変えることで、楽な姿勢で撮影をすることが**できる。上方向に180°動かすことで、自撮りもできるので活用しよう。



自分の目線よりも高い位置からの撮影。人混みなどでもきっちりとモニターを確認しながらの撮影が可能だ。



モニターを上に向けると、しゃがむだけで地面すれすれの低い位置からの撮影も可能だ。

まとめ

- ▶ 左手でカメラを支え、右手でシャッターボタンを押す
- ▶ 日中でモニターが見づらいときはファインダー撮影がおすすめ
- ▶ モニターを動かして撮影しやすい体勢をつくる

SECTION

02

ピント合わせの方法を選ぼう

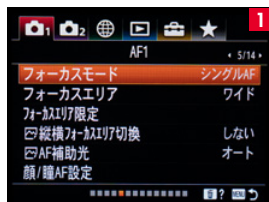
100V 100V 100V KEYWORD ▶ フォーカスモード ▶ AF-S ▶ フォーカスロック ▶ AF-C

1 フォーカスモードの種類

RX100シリーズは被写体の種類、撮影条件によって、**ピント合わせの方法を5種類のフォーカスモードから使い分ける**ことができる。普段はシャッターボタンの半押しで一度ピントを合わせると、再度ボタンを離して押し直さない限り同じピント位置を維持し続ける「**AF-S**」でまず問題ない。しかし、動くものを追いかけて撮影する際や、何かのものの越しに撮影する場合など、特殊なシチュエーションでは「**AF-C**」「**DMF**」「**MF**」を使い分けよう。また、被写体の動きに応じて、シングルAFとコンティニュアスAFが自動で切り替わる「**AF-A**」も便利なフォーカスモードだ。

AF-S (シングルAF)	AF-S	シャッターボタンを半押しして、ピントが合った時点でピントを固定する。止まっている被写体に適している。
AF-A (AF制御自動切り換え)	AF-A	被写体の動きに応じて、シングルAFとコンティニュアスAFが切り替わる。シャッターボタンを半押しすると、被写体が静止していると判断したときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピントを合わせ続ける。
AF-C (コンティニュアスAF)	AF-C	シャッターボタンを半押ししている間、ピントを合わせ続ける。動いている被写体に適している。
DMF (ダイレクト マニュアルフォーカス)	DMF	手動でピント合わせを行うMFと、カメラが自動で行うAFを組み合わせられる。
MF (マニュアルフォーカス)	MF	コントロールリングを回して、手動でピントを合わせる。

【設定方法】



MENU ボタンを押し、 (撮影設定1) から「フォーカスモード」を選ぶ。



希望のフォーカスモードを選んで、を押す。

2 AF-Sでフォーカスロックを行う

AF-Sで被写体にピントを合わせたら、シャッターボタンを半押しのままカメラを動かし構図を変えてみよう。被写体までの距離が極端に変わらない限りは、**ピントを固定したまま構図を変える**ことができる。これを**フォーカスロック**という。



AF-Sでピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、その被写体までの距離にピントを固定してくれる。



被写体までの距離が大きく変わらない程度にカメラを動かすことで、ピントを合わせたままま構図を変えることができる。

3 AF-Cでピントを追尾する

AF-Cでは、**シャッターボタンを半押ししている間、フォーカスエリアの位置にある被写体にピントを合わせ続けてくれる**。被写体がフォーカスエリアから外れないようにカメラを動かすことで、動く被写体までの距離が変わってもピントを合わせ続けることが可能だ。



フォーカスエリアの位置は画面内を広く自由に設定することができる。設定したフォーカスエリアを被写体に合わせ続けるようにカメラを動かそう。



動く被写体はカメラからの距離も変化する。AF-Cで撮影すると、このような場合もしっかりとピントを合わせ続けることができる。

まとめ

- ▶ ピント合わせの方法を5種類のフォーカスモードから選べる
- ▶ 動かない被写体はAF-Sでフォーカスロックする
- ▶ 動く被写体はAF-Cで追尾する

SECTION

08

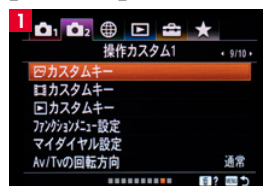
ズーム機能を
活用しよう

100V | 100V | 100V | KEYWORD ▶ズーム機能 ▶ステップズーム

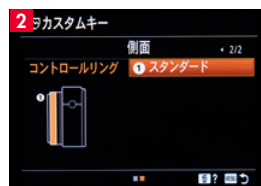
1 コントロールリングにズーム機能を割り当てる

RX 100シリーズのカメラでは、ボディ上部のW / T (ズーム) レバーで簡単にズームすることができるが、**コントロールリングにズーム機能を割り当てる**こともできる。リングを回すことによって直感的な操作ができるので、コントロールリングでのズーム機能も活用してみよう。

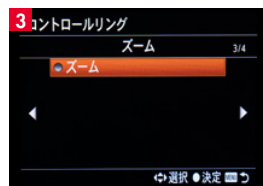
〔設定方法〕



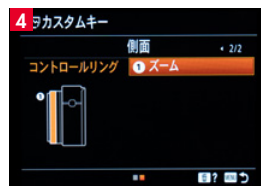
MENU ボタンを押し、**2**(撮影設定2) から [カスタムキー] を選び、●を押す。



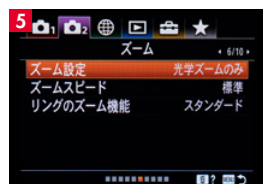
側面のコントロールリングを選択する。初期設定では「スタンダード」になっている。



●を押して、「ズーム」を選択する。



●を押すと、コントロールリングに「ズーム」が割り当てられる。

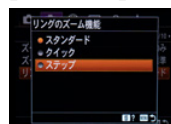


MENU ボタンを押し、**2**(撮影設定2) から [ズーム設定] [ズームスピード] [リングのズーム機能] などを設定できる。

2 ステップズームを活用する

コントロールリングによるズーム操作を行う際、**ステップズーム機能**が便利だ。スタンダードズームやクイックズームでは、意図した焦点距離にピタリと合わせるの難しいが、ステップズームでは光学ズーム時の倍率がいくつかの段階に固定される。たとえば、RX100VIIでは24/28/35/50/70/85/100/135/200mmの9段階だ。コントロールリングを回すだけで、**焦点距離が段階的に切り替わる**ので意図した焦点距離まで快適にズームできる。

〔設定方法〕



MENU ボタンを押し、**2**(撮影設定2) の [リングのズーム機能] から [ステップ] を選び、●を押す。



コントロールリングを回すと、9段階の倍率が表示されるので、段階的にズームできる。

〔24mm〕



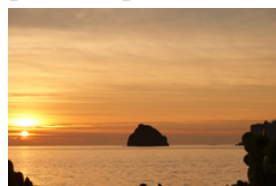
広角端となる24mmでは広い風景もダイナミックな構図に仕上げる事ができる。

〔50mm〕



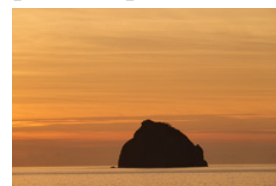
標準画角の50mmは人間の視界に近く、落ち着いた印象の画角になる。

〔100mm〕



100mmの望遠では遠くの被写体を主役に捉えることができる画角になる。

〔200mm〕



肉眼ではしっかりと見ることができないほど遠くの被写体も200mmなら大きく捉えられる。

まとめ

- ▶ コントロールリングにズーム機能を割り当てることができる
- ▶ ステップズーム機能を活用すると、快適にズームできる

SECTION

02

プログラムオートで撮ろう

100V 100V 100V KEYWORD ■プログラムオート ■プログラムシフト

1 オートモードとの違い

プログラムオートとは、写真の明るさを決定する絞り値とシャッタースピードの露出操作をカメラが自動で行う撮影モードである。ISO感度の設定、ホワイトバランスやフォーカスエリアの移動などの操作は手動で行うこともできるので、写真の露出以外の要素には撮影者の意図を反映させやすいのが特徴だ。それに対し、オートモード（おまかせオート、プレミアムおまかせオート）では、シャッターを切る以外のほとんど操作をカメラが自動で行うことになる。適切な撮影モードに悩むようならオートモード、露出操作以外は自分で設定したいならプログラムオートを使うとよい。

【設定方法】



モードダイヤルを回してP（プログラムオート）に合わせる。



プログラムオート画面になり、絞り値とシャッタースピードが自動で設定される。



プログラムオートでの撮影では露出操作をカメラに任せることにより、構図や色、シャッターチャンスなどのほかの要素に集中できるメリットがある。露出操作よりも大切な要素があるシーンで役に立つ撮影モードだ。

DATA

モード P 絞り F5 シャッター 1/1600秒 ISO 100
WB 太陽光 露出補正 0 焦点距離 9mm(24mm相当)

2 プログラムシフトを使う

プログラムオートでの撮影では、絞り値とシャッタースピードの値をカメラが自動で設定することにより、写真の明るさが決まる。だが、絞り値とシャッタースピードの操作によって得られるボケやブレの描写も写真に加えたい場合は、この2つの値の組み合わせを変えることで、**写真の明るさはそのまま変わらずに描写だけを変える**ことができるのだ。これを**プログラムシフト**という。シャッターボタンを半押しし、絞り値とシャッタースピードをカメラが算出したあとで、コントロールホールを回すと、2つの値の組み合わせが変化する。

[F2.8・1/1600秒]



カメラが算出した絞り値とシャッタースピードで撮影。コントロールホイールを回すことで、明るさはそのままほかの露出の組み合わせでも撮影することができる。

[F11・1/125秒]



もう少し奥の花までくっきりとした描写を得たかったので、コントロールホイールを回してプログラムシフトを行った。写真の明るさを変えることなく、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変えることができた。

【設定方法】



プログラムオート時にコントロールホイールを回す。



カメラが設定した標準露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できる。プログラムシフトを解除するには、いったんほかの撮影モードに変更するか、電源をOFFにする。

まとめ

- ▶ プログラムオートは、露出に関する部分だけカメラが自動的に決定する
- ▶ プログラムシフトは、露出を変えずに絞り値とシャッタースピードを変える機能

SECTION

04

トラッキングと
連続撮影で動体を狙おう

100V 100VI 100VII KEYWORD ▶トラッキング ▶連続撮影

1 トラッキングで動体を捉える

トラッキングとは、カメラが**被写体を認識し画角内を広く自動追跡してくれる**機能のことだ。画角から外れた被写体が画角内に戻って来たときにも追跡を再開してくれるので、動きが大きな被写体の撮影では特に活躍する。随時動いている被写体の場合は、モニター上の被写体にタッチすることで追跡が始まるタッチトラッキングが直感的に操作しやすいだろう。この場合は、シャッターボタンを半押ししていなくても追跡し続けてくれる。



DATA

モード M 絞り F6.3 シャッター 1/2500秒 ISO 1000
WB 太陽光 露出補正 0
焦点距離 72mm (約194mm相当)

空を飛ぶ鳥もトラッキングしてしまえば、しっかりと自動で追跡してくれる。あとは構図に収めてシャッターを切るだけだ。

2 連続撮影で決定的瞬間を捉える

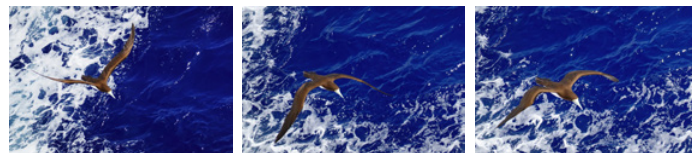
動体撮影時のピント合わせはトラッキングに任せることができるが、構図やシャッターチャンスはモノにするのは撮影者の役割である。しかし、**激しく動く被写体**の撮影では、構図から外れてしまったり、シャッターチャンスを逃してしまったりすることもあるだろう。そんなときは**連続撮影**がおすすめだ。RX 100 VIIでは**最高20コマ/秒**の連続撮影が可能なので、動く被写体をトラッキングで追従しながら連続撮影し、撮影後に出来のよい1枚をセレクトしよう。



DATA

モード M 絞り F4.5
シャッター 1/2500秒
ISO 200
WB 太陽光 露出補正 0
焦点距離 72mm
(約194mm相当)

白波に重なって飛ぶカツオドリ
の羽がきれいに広がった瞬間
の1枚をセレクト。羽がブレな
いようにシャッタースピードは
高速の1/2500秒にした。



鳥と波の位置関係、羽の広がり具合など、シャッターチャンスが狙いづらい場合でも連続撮影なら安心だ。

【設定方法】



コントロールホイールの◀(D)/[M] (ドライブモード)を押す。



ドライブモードの画面が表示されるので、「連続撮影」を選んで、●を押す。

まとめ

- ▶動く被写体は「トラッキング」で追従して撮る
- ▶動く被写体は「連続撮影」を使って、決定的瞬間を捉える

SECTION

08

被写体と相性のよいピクチャーエフェクトを選ぼう

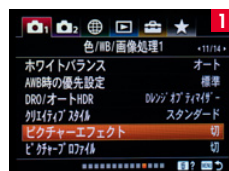
100V 100V 100V KEYWORD ▶ピクチャーエフェクト

1 ピクチャーエフェクトの種類

ピクチャーエフェクトとは、**画像に特殊なエフェクトをかけて個性的な写真に仕上げてくれる機能**のことだ。撮影時に効果を加え、アーティストックな1枚をつくることができる。あらかじめカメラに13種類が搭載されている。なお、オート、シーンセレクション、スイングパノラマ、動画、画質がRAW、RAW+JPEGのときは設定できない。

トイカメラ	トイカメラで撮ったように、画面の四隅が暗くなり、落ち着いた色味になる。色合いを調整可能。
ポップカラー	彩度が高くなり、カラフルに仕上がる。たくさん色がある被写体に効果的。
ポスタライゼーション	原色または白黒のみで、メリハリのある抽象的な写真に仕上がる。
レトロフォト	セピア調でコントラストが低くなり、ノスタルジックな雰囲気に写る。
ソフトハイキー	全体的に明るくなり、爽やかでやさしい印象に仕上がる。
パートカラー (グリーン・ブルー・レッド・イエロー)	特定の色のみを抽出し、それ以外の色をモノクロで写す。
ハイコントラストモノクロ	明暗を強調した、カッコいいモノクロ写真に仕上がる。
ソフトフォーカス	フォーカスがボカされ、ふんわりと描写される。効果の強弱を設定可能。
絵画調HDR	色彩や輪郭が強調され、絵画のように仕上がる。効果の強弱を設定可能。
リッチトーンモノクロ	ハイコントラストモノクロに比べ、階調豊かなモノクロ写真になる。
ミニチュア	ミニチュア模型のように写る。ボカす位置を設定可能。
水彩画調	にじみやボカしを加えて、水彩画のように仕上がる。
イラスト調	輪郭が強調され、イラストのように仕上がる。効果の強弱を設定可能。

[設定方法]



MENU ボタンを押し、 1 (撮影設定1) から [ピクチャーエフェクト] を選ぶ。



希望のピクチャーエフェクトを選んで、 を押す。

2 都市風景をカッコよく撮る

頭にイメージしている印象がうまく写真に描写されないときには、ピクチャーエフェクトを使ってみよう。たとえば、「**ハイコントラストモノクロ**」なら、**明暗差が強調されたモノクロ**に仕上がることができるし、「**リッチトーンモノクロ**」なら、HDRのように合成技術を使うことで**明暗差が少なく階調豊かなモノクロ**にすることができる。都市風景であるビル群を撮影するときにはどちらもおすすめのピクチャーエフェクトだ。

[ハイコントラストモノクロ]

DATA

モード M
絞り F11
シャッター 1/100秒
ISO 125
WB AWB
露出補正 0
焦点距離 9mm (約24mm相当)

コントラストが高いので陰影が強調されている。白とびや黒つぶれを気にせずに撮影しよう。



[リッチトーンモノクロ]

DATA

モード M 絞り F11 シャッター 1/200秒
ISO 125 WB AWB 露出補正 -1
焦点距離 9mm (約24mm相当)

HDRのように連続撮影と合成を自動で行ってくれる「リッチトーンモノクロ」は、細かな部分もきっちりと描写することができる。



SECTION

01

タッチパッド操作で
ピントを合わせよう

100V 100V 100V KEYWORD ■ タッチパッド

1 ファインダーを見ながら自由にピント位置を移動できる

「タッチパッド」とは、ファインダーで撮影する際にモニターを指でなぞると、それに連動してフォーカス枠が移動する機能である。ファインダーから目を離すことなく直感的に操作できるので便利だ。設定しているフォーカスエリアに関係なく、自動的に「フレキシブルスポット」のMになるので、とっさにフォーカスエリアを切り替えたいときにも重宝するだろう。ただ、タッチ操作時の機能が、タッチフォーカスかタッチトラッキングでのみ使用できる点に注意しよう。

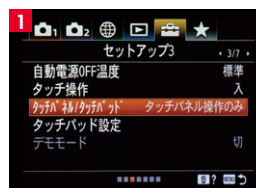


ファインダーを覗きながら指でモニターをなぞるように動かすことで、フォーカス枠を移動させることができる。タッチトラッキングの場合は、指を離すことでトラッキングが開始する。

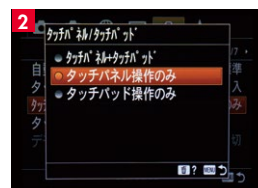


RX100シリーズのような小型カメラでは、ファインダーを覗きながらのボタン操作は難しい。モニターで直感的に操作することで、フォーカス枠の移動も的確に行えるだろう。

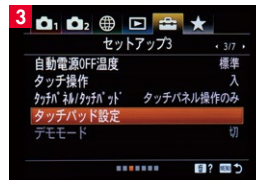
【設定方法】



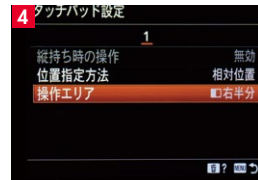
MENUボタンを押し、 (セットアップ) から[タッチパネル/タッチパッド]を選ぶ。



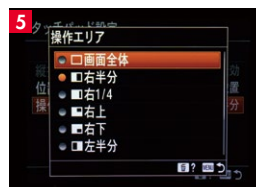
●を押して、「タッチパッド操作のみ」を選択する。



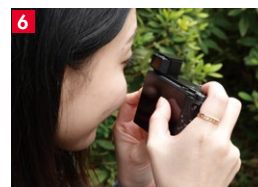
(セットアップ) から[タッチパッド設定]を選び、希望の設定項目を設定していく。



●を押して、「操作エリア」を選択する。



●を押して、モニター画面上でタッチ操作する場所を設定する。



ファインダーを覗きながら、モニターをタッチしたまま指を動かす。



指の動きに合わせてフォーカス枠が動くので、ピントを合わせたい被写体に枠を合わせる。



シャッターボタン半押しでピントが合う。モニターの指を移動して、別の被写体にフォーカス枠を合わせることもできる。

まとめ

▶ タッチパッド操作を使うと、ファインダーを見ながらフォーカス枠を移動して撮影できる

SECTION
03写真に位置情報を
記録しよう

100V 100VⅠ 100VⅡ KEYWORD Bluetooth 位置情報

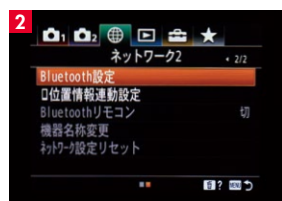
1 Bluetooth経由で位置情報を取得する

RX100シリーズはRX100VIからImaging Edge Mobileを使ってスマートフォンをBluetoothでペアリングすると、そのスマートフォンのGPSなどから位置情報を取得して、画像撮影時に位置情報を記録することができるようになった。日常や旅先などでも位置情報を記録できるので、この機能もぜひ活用してみよう。ここでは、その設定方法を紹介する。

〔設定方法〕 ※ここでは、iOS版で解説。



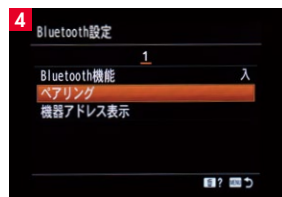
スマートフォンのBluetooth機能をオンにしておく。



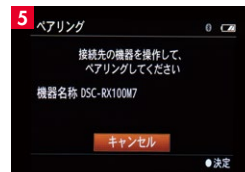
MENUボタンを押し、⊕（ネットワーク）の「Bluetooth設定」を選択する。



●を押し、「Bluetooth機能」を選び、「入」に設定する。



⊕（ネットワーク）の「ペアリング」を選択する。



●を押すと、この画面になるので、スマートフォンのImaging Edge Mobileを使ってペアリング操作を行う。



スマートフォンでImaging Edge Mobileを起動し、「位置情報連動」をタップする。



「位置情報連動」をオンにする。



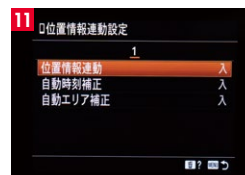
「位置情報連動」の設定画面の指示に従って操作し、位置情報を連動させるカメラを設定する。



カメラの画面にメッセージが表示されるので、●を押すと、ペアリングが完了する。



スマートフォンでも、位置情報を連動するカメラが「接続済み」となる。



⊕（ネットワーク）の「位置情報連動設定」から「位置情報連動」を「入」にする。



Ⓜが表示される。撮影すると、スマートフォンが取得した位置情報が写真に記録される。

まとめ

▶ スマートフォンから位置情報を取得して、画像撮影時の位置情報を記録することができる